You, too, can grow!

あなたも成長できる！

B. R. ヒックス

あなたも成長できる！

多くの人々が、クリスチャンの成長に関する教えを口先では素晴しいと言いますが、神の民の間に霊的成熟が欠けていることを問題にする人は、ほんのわずかです。なぜ実り豊かなクリスチャンになっているべき時期が、すでに過ぎてしまっているのに、多くの信者が、霊的な乳飲み子のままでいるのかということには、ほとんど関心が向けられていないのです。

霊的な成長の過程というのは、霊的な身丈が徐々に増大していくことです。そして、それは新しい霊の人の中に、新たに啓示された神のみことばが同化してゆくことにより起こるのです。人は、イエス・キリストを救い主として個人的に受け入れた時、生まれ変わる体験をします。霊的成長は、その時から種の形で始まるのです。それから、霊的な身丈において成長し、神にある霊的な成熟を目指して前進し続けるために、信者はイエス・キリストのいのちのみことばを、霊的食物として食べていかなければなりません。忠実に求め、神の尊いみことばの中に、新しい真理を見出してゆく限り、信者の霊的な成長は継続するのです。

すべての信者は天において、みな同じ報酬を受けるという教えが、広く一般に受け入れられており、このことが、クリスチャンの間にある霊的な眠りの原因かもしれません。信者の未来の住まいに関する無知が、継続的な祈りとみことばの学びの生活の必要性に対する霊的な眠り、忘却、完全な無関心という状態を生み出しているのです。事実教会は、死んで地下に埋められているようなあり様なのに、霊的に眠った状態で地上に存在することは恥ずかしいことです。

使徒パウロは、その当時のクリスチャンに、霊的な眠りから覚めるようにと警告しています。「それでこう言われています。眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」(エペソ 5:14)　神の似姿とイメージに成長させるイエスの愛情探いへりくだりの足跡を見出すことなく、人生を過ぎ去らせてしまう危険に、クリスチャンが気付くことを霊的な眠りは妨げてしまいます。霊的な眠り

は、人生の終わりにおいて受ける報酬についてのビジョンを日々得ることも妨げます。私たちが霊的な眠りから目覚めて、みことばと祈りにおける怠慢を悔い改める時、キリストは霊的成長の過程を啓示するみことばのうちに、光を与えて下さいます。霊的な眠りとは、自然の眠りのようなもので、忘却と無意識の状態です。

使徒ヤコブは大きな二種類の忘却について記しています。「自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようであったかを忘れてしまいますところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。」(ヤコブ１：24，25)

霊的な死である忘却のひとつは、神のみことばの鏡に自分を映して見た後に、自分がどのようであったかを思い出せないというものです。神のみことばの鏡は、生まれつきの人間の中にあるイエス・キリストとは全く違ったものを、啓示してくれるのです。

もうひとつの霊的な眠りは、神のみことばを忘れるということです。それは、自分自身の罪深い利己主義、みじめさ、苦悩、そして霊的身丈に成長することを妨げるこの世の物に対する愛着などに対し、罪意識を与える神のみことばを思い出せないということです。みことばを聞くことが途絶えてしまった時、霊的な眠りは罪意識を破壊してしまい、まるで、降ってもすぐに何事も無かったかのように、からりとあがる夏の夕立のように、みことばに対する愛を消し去ってしまうのです。それで私たちは、魂をイエス・キリストの義で装うことに失敗するのです。すべてのクリスチャンが、同じ一つの場所で、永遠を過ごすという間違った観念が、広く受け入れられていることが、クリスチャンの思いと心に、霊的な眠りを惹き起こす麻酔剤となっているのです。この本の学びを通し、聖書が与える永遠についての説明を学ぶならば、そのような考えが、いかに間違ったものかを示されることでしょう。

成長せよとの神の命令

主イエス・キリストは、人類の創造主であり、そのうえ贖い主でもあられるのです。ですから人類に対し、各自が自分の前に備えられた目標を獲得すべきであると命令する権力と権威を持っておられるのです。

> ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。（Ｉペテロ２：1～3）

神のみことばは、永遠に生きてとどまる、朽ちることのない、いのちの種なのです。使徒ペテロは、生まれつきの人間の汚れた罪深い性質は、霊の人の神のみことばに対する飢え渇きの成長を妨げると言っています。

悪意、それは他人を傷つけようとする悪い性質です。他人に対して悪質な仕返しをしようと、前もって思い巡らすその思いは、神の聖いみことばに対する霊的な飢え渇きの成長を妨げます。

欺きは、偽りの堕落に満ちており、虚偽の言葉、お世辞などで他人を利用します。また、霊の人が持っている神の無限の真理に関する正しく聖いみことばに対する飢え渇きを、抑圧し、邪魔するのです。

生まれつきの人間の汚れた心には、多くの違った形の偽善が住んでいます。それが、神の神聖なみことばを自分のものにしたいという、霊の人の飢え渇きを抑圧するのです。偽善は、真実とは正反対のものなのです。たとえば、宗教的熱心の偽物があり、また、大げさなお世辞と喜ばせる約束を伴うにせの友情があります。これらすべて偽善を伴う事柄は、霊の人のみことばに対する飢え渇きが成長することを妨げます。

ねたみは、誠実な真理に対する飢え渇きの大きな敵です。ねたみは、他

人の才能、能力、成功、昇進に対して嫌悪と怒りをおぼえさせるのです。

悪口は、真理に対する飢え渇きの、もう一つの有名な敵です。それはいつも他人を見下ろし、引き降ろし、名誉を傷つけ、陰口をたたかせます。

これらの古い腐ったらい病の衣を魂から脱ぎ捨てなければなりません。そうすれば、人間の意見や考えなどの不純物で汚されていない、純粋で聖い乳であるみことばに対する霊の人の飢え渇きは満たされるのです。

自然界において新生児は、健全な栄養を与え、成長を促進する乳を烈しく、頻繁に欲しがります。霊の世界においても、同様であり、神の聖いみことばは、キリストにある新生児に、純粋な乳を与えます。イエス・キリストの健全で真実な乳は、霊の人に完全な栄養を与え、知恵と悟りにおける成長を促します。

> 私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。このキリストに、栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。
>
> （Ⅱペテロ 3：18）

ペテロは第一の手紙の中で、すべての成長の源はみことばであることを教え、第二の手紙では、クリスチャンが何において成長すべきかを説いています。クリスチャンは恵みと知識において成長すべきなのです。

*恵み*という言葉のギリシャ語の意味は、恩恵であり、感謝、喜び、自由、楽しみ、お礼という意味を含んでいます。神のみことばにあって成長するということは、信者が、神に対する喜びに満ちた感謝において成長することです。また、神の恵みと感謝の思いをまわりの人々に及ぼすということです。イエス・キリストが、神の恵みの創始者であり、知識の目標です。

イエス・キリストの知識に成長するということの意味は、神の思い、みこころ、そして神の義と聖さの道に関する理解を増大させるということです。それは、神の神聖な道徳的真理の原則を、毎日の生活において適用できるほどに良く認識するということです。

エペソ人への手紙では、教会の成長と信者の個人的成長を、建物にたと

えています。イエス・キリストは、教会と信者一人一人の土台の隅の頭石です。

> こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。この方にあって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにあって、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。
>
> (エペソ 2：19～22)

教会は、礼拝、賛美、奉仕という霊的ないけにえのために、キリストによって結びつけられた聖い宮です。イエス・キリストは、教会の中に御名を置かれ、二人三人の信者が御名のゆえに集うところには、特別な方法で御自身を啓示すると約束して下さいました。同様にキリストにあって生まれ変えられたすべての信者が、イエス・キリスに対する礼拝、賛美、そして奉仕のうちに成長すべき聖い宮である住み家なのです。

成長について書かれているすべてのみことばは、クリスチャンのためであって、未信者にあてて書かれたものではありません。『聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。』（Ⅱテモテ 3：16，17）とみことばは教えています。聖書は神の霊感によって書かれているのですから、使徒達は成長についての自分達の意見を書いているのではなく、神の命令そのものを書いているということがわかります。

みことばは、絶対に確実な神からの啓示であるため、クリスチャンの成長を助けることに関し、信頼することが出来ます。その教えは、神の聖く純粋で神聖な真理の法則に、私たちを気付かせてくれます。その戒めは、私たちのどの部分が神の道徳的原則の真理に欠けているかを、啓示します。

その矯正は、真理の教えに不従順になることを取り除き、従順になれるように、キリストの信仰で私たちを強めます。その訓練は、すべての人々に対し良い行いをすることによって、神の真理の義をいかにして成就するかを私たちに教えます。このようにして、神の人の霊は、完成に向かって上昇し前進するのです。

主は、「もし、あなたがそういう気分になったら成長しなさい。」とか、「もし、そうするのが都合良かったら成長しなさい。」とか、「もし、あなたに特別な野心があるなら成長しなさい。」とは言いませんでした。いいえ！キリストの満ち満ちた身丈に成長するようにと神は信者に命じられているのです。

> こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。
>
> （エペソ４：11～16）

イエス・キリストが天に昇られた時、神は平安と和解と成長のために、

教会に奉仕の賜物を与えて下さいました。キリスト・イエスのゴールと目的は人々を救うだけではなく、彼らを完成と満ち満ちたキリストの似姿である霊的な成熟へと導くことにありました。クリスチャンが子供じみた霊的な虚さや、真理に対する無知による暗闇から自由になることを、神は望んでおられます。そして神は、私たちが試みに会った時や苦難にある時、又は肉の人の誤った裁きを受けた時の信仰の弱さや、誘惑に乗りたいという思いからも、解放されることを望んでおられます。私たちの内にキリストの身丈が完成されるなら、それによって私たちクリスチャンは、嵐の荒海を行く舵の無い舟のように一つの意見から他の意見へと魂を前後にゆすぶる、肉的な不安定から救い出されるのです。愛を待って真理に従うことが、信者をキリストに根を深くおろさせ、すべての事において、よりキリストを愛し、信頼し、拠り頼むことができるようにするのです。信者が霊的な成熟へと成長するなら、未熟な子供じみた遊び場から離れます。

神は人間を、目に見えない神の偉大な霊的真理を理解できない状態にはしておかれませんでした。『神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。』（ローマ１：20）

神の力と頭（かしら）は、目に見えない霊の世界に属しているのです。しかしながら、これらの目に見えない物は、神の創造の業である目に見える自然界を通じて、明確に見えて理解できるようになっているのです。御自身の隠れた業を、目に見えるものを通じて明示することによって、御自身を知らせようとしておられます。職人はその作品によって知られるのです。ですから、完全な秩序、調和、多様性、美など、自然界のすべてのすばらしさは創造主について語っているのです。

神は、目に見えない世界における霊的な一つ一つの真理に対応して、目に見える被造物のたとえを与えておられます。例えば、神のみことばと霊という目に見えない水を表わすために、目に見える世界に海、井戸、川、噴水などの水を創造なさいました、また、霊の世界の義の太陽の輝きを表わすために、自然界において大空に太陽を置かれました。霊の世界の神の

みことばの種が成長し、再生産するという性質を表わすために、神は自然界の地を種で満たされました。目に見える世界全体は、霊的な世界を説明するために神が描かれた自然の絵で満ちています。それは、霊の世界に存在する、より崇高で聖い真理を、人間が認識することを助けるために神が被造物の中に描き出されたのです。そのようなわけで神は、自然界にある物を、霊の世界にある物の絵、あるいはひな型として用いられるのです。

成長の姿

人類のために神は、御子イエス・キリストの似姿、イメージ、ひな型、形、写影などをみことばの中に、多く残されました。ですから私たちは、イエス・キリストにあって霊的成熟へと成長しなさいという神の命令を、どのように達成するかについて、明確に知ることができるのです。

聖書の中で、旧約聖書の幕屋ほど精密、かつ詳細にイエス・キリストの身丈を描写している箇所は他にありません。ヘブル人への手紙に、第一の幕屋は、偉大でより完全な幕屋であるイエス・キリストのひな型、型、あるいは影であると書かれています。

> これによって聖霊は次のことを示しておられます。すなわち、前の幕屋が存続しているかぎり、まことの聖所への道は、まだ明らかにされていないということです。この幕屋はその当時のための比喩です。それに従って、ささげ物といけにえとがささげられますが、それらは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いに関するもので、新しい秩序の立てられる時まで課せられた、からだに関する規定にすぎないからです。しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事がらの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、

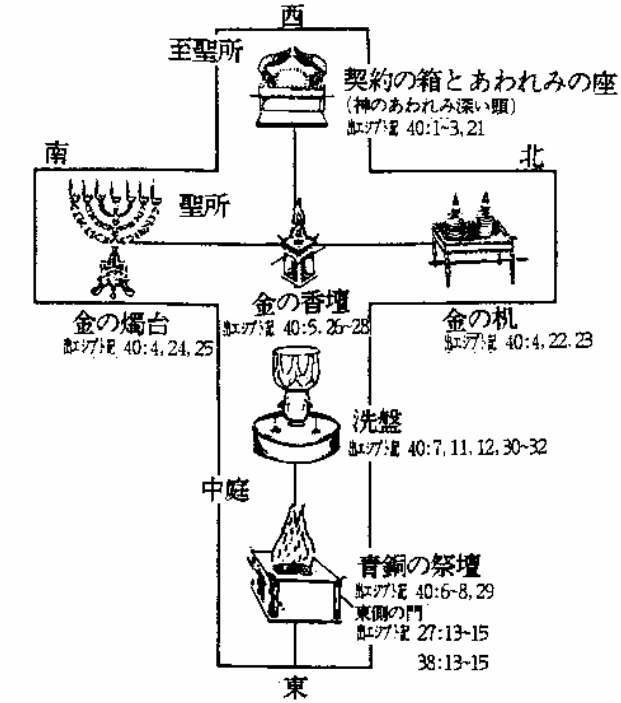
(ヘブル９：８～11)

モーセの幕屋*は、どのようにすればキリストの、満ち満ちた身丈に成長することができるのかを、人間の心に啓示する導きの光です。それは、モーセの幕屋が、御子の身丈の青写真だったからです。

イエス・キリストの霊的な身丈は、モーセの幕屋の７つの家具の中と基本的な３つの部分とに、型、あるいは影という形で啓示されています。出エジプト記 40 章で、神はモーセに、西から東、北から南というように、７つの家具を十字架の形に配置するよう指示されました。

＊B. R. ヒックス「幕屋の貴い宝石」 (Jeffersonville, Indiana: Mexican Inland Missionary Society, 1961)

モーセの幕屋の配列



神の霊的な方角を支配している法則は、自然界において主要な４つの方

角を決定するもの、すなわち東西南北に置き換えられます。モーセの幕屋では、十字架の縦の棒は、西側の至聖所に置かれたあわれみの座のある契約の箱と、東側の庭に置かれた青銅の祭壇によってその位置が確定しました。聖所に置かれた北側のパンの机と南側の金の燭台が、十字架の横の棒を描いています。洗盤は庭に降りて来る縦の棒の上に位置し、金の香壇は、縦横両方の棒の中央に位置していました。神は、モーセが家具を置く際に、モーセの幕屋の頭にあたる場所から始めて、足の方すなわち人間の存在する方へと降りて行くように命じられました。言い変えるならば、贖いは、堕落した人間に向かって、あわれみ深く手を差し伸べて下さった、神御自身から始められたということなのです。

契約の箱とあわれみの座が、統一されたあわれみ深いイエス・キリスの主権について美しく語っています。そのイエス・キリストは、一切のものの上に立つ、頭（かしら）なる方として教会に与えられているのです。

> また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。（エペソ 1：22，23）

12 のパンの置かれたパンの机は、のちに来るイエス・キリストの支配の力と**権威を映し出した**影でした。そのイエス・キリストは、御自身が天から下った生けるパンであると宣言しておられます。

> あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死にました。しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。（ヨハネ 6：49～51）

金の燭台には、油と光と火がありました。それはイエス・キリストの内に啓示された真の知恵の油と真の悟りの火と真の光の知識を表していました。

> あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。（コロサイ 2：1～3）

> イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」（ヨハネ 8：12）

金の香壇は、主イエス・キリストの香ばしい祈りの奉仕を描いています。神がその祝された御名をクリスチャンに委ねられたので、今やすべての信者が祈りの中で御名の力強い香りを用いるという特権を得たのです。

> またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう。
> （ヨハネ 14：13，14）

モーセの幕屋の庭にあった青銅の洗盤はイスラエルの民について来た霊的な岩からの水で満たされていました。岩が誰であったかは、Ｉ コリント 10：4 に明らかに示されています。「みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。**その岩とは**

キリストです。」洗盤の中の水は真理の水の啓示、清めそして変える力を表わしていました。その真理の水とは、イエス・キリストの御名と死とよみがえりのいのちなのです。

> それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。（ローマ６：3，４）

信者は水のバプテスマという水の墓に下ります。それは、イエスのへりくだりの御名、苦しみの死、よみがえりのいのちという霊的な水を、内側に働かせて、主であり救い主であるイエス・キリストのイメージと似姿に変えられることを、自ら進んで受け入れることを表わしているのです。

いけにえが捧げられた青銅の祭壇は、暮屋の東側の門の所にありました。それは十字架の下部にあたり、イエス・キリストによって、もたらされた恵みと真理のへりくだりの座を描いています。

> ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。「『私のあとから来る方は、私にまさる方である。私より先におられたからである。』と私が言ったのは、この方のことです。」
> 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。（ヨハネ１：15～17）

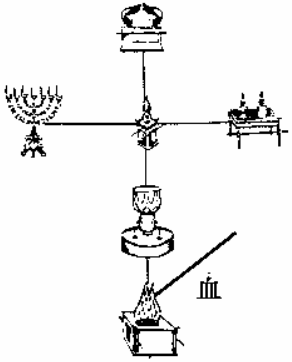
> ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただい

て、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。(ヘブル 4：16)

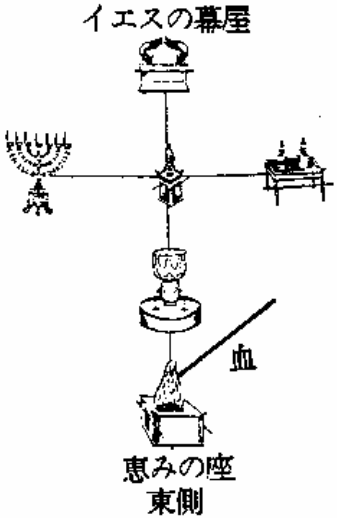
人間は、神のおられる所、すなわち西側の栄光の頭（かしら）の領域から始めることは出来ません。なぜなら、初めに人類は、罪の低い穴に落ち込み、エデンの園の東側で神から離れて行ったからです。

初めに罪深い人間は、東側の恵みの座という幕屋の一番下から再出発しなければなりません。そして、神との和解と交りに立ち帰るために、罪のためのなだめとして捧げられた、主イエス・キリストのいけにえの血潮を受け入れなければならないのです。

私たちの永遠の救いは、私たちの価値、能力、あるいは才能によるのではなく、私たちの救いの創始者であるイエス・キリストによって達成されるものなのです。イエス・キリスの愛とあわれみと恵みは、私たちを罪から洗い清めるために、御自身の貴い血潮で満たされた清めの泉を開いて下さいました。彼の恵みの座に対する信仰こそが私たちを義と認め、罪を許すものなのです。ですから、インマヌエルの血管から流れ出たこの血潮の泉によって清められるために、私たちは大胆に恵みの御座に出ようではありませんか。



青銅の祭壇
東側



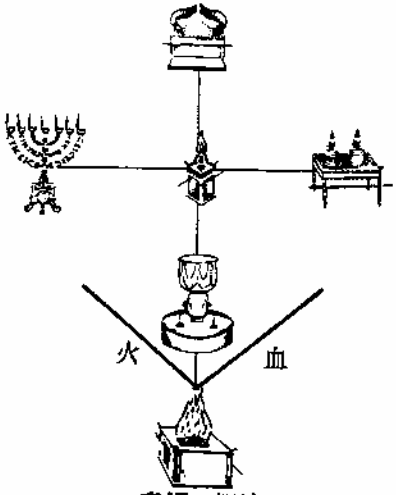
私たちは、イエス・キリストの貴い釘付けの傷跡のある御足、すなわち恵みの座から始めましょう。そこで私たちは暗闇と死と破壊のサタンの王国から、光といのちと建設的な建築計画のある神の王国へと移されるのです。

> ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から救い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。（I ペテロ 1：18，19）

> あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるのではありません。だれも誇ることのないためです。私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。（工ペソ 2：８～10）

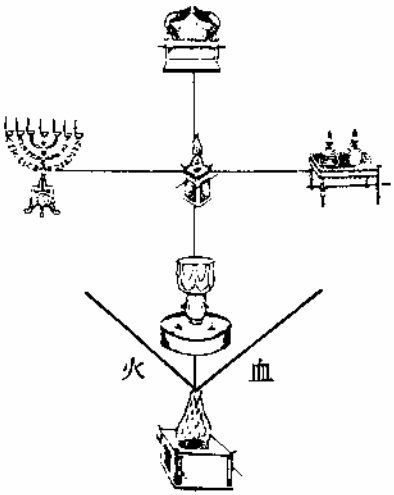
次に、モーセとアロンが青銅の祭壇で血を捧げた後、主の火が下りました。（レビ 9：22～24）モーセの幕屋の聖なる火は、新約聖書における聖霊と火のバプテスマを表しています。

モーセの幕屋



青銅の祭壇
東側

イエスの幕屋



恵みの座
東側

イエスは、信者達に聖霊と火のバプテスマを受けるまではエルサレムにとどまりなさいと強く勧めました。

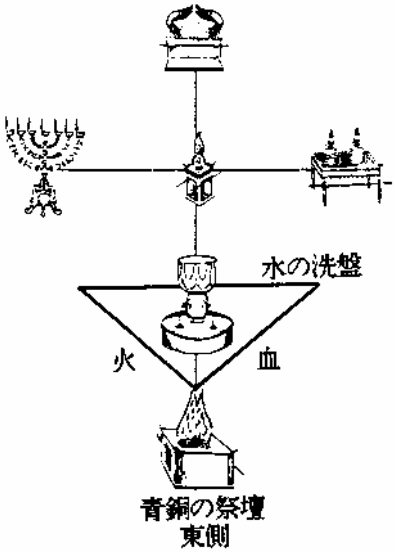
> さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。（ルカ 24：49）

> 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。（使徒 2：1～4）

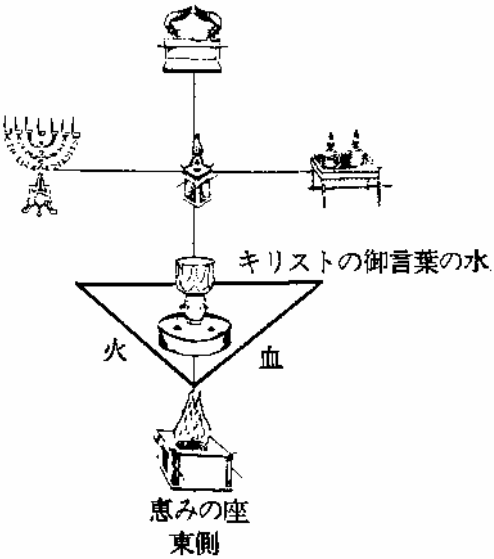
モーセの幕屋全体のすべての成長と奉仕は、青銅の祭壇にあった血と火という土台に基づいていました。同様に、イエス・キリストの身丈においても、罪のために流された貴い血潮と聖霊の火が、信者の霊的な家の土台の最下部を造りあげています。

青銅の洗盤は、モーセの幕屋の中庭にあった二番目の家具ですが、それは、人間が神との交りへ立ち帰って行く過程での、三番目の霊的体験を表わしています。青銅の洗盤は、主イエス・キリストの御名による水のバプテスマの美しい姿を示しています。

モーセの幕屋



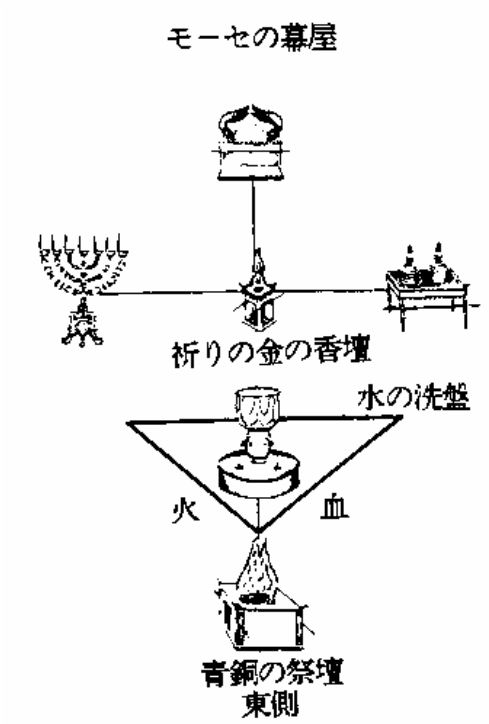
イエスの幕屋

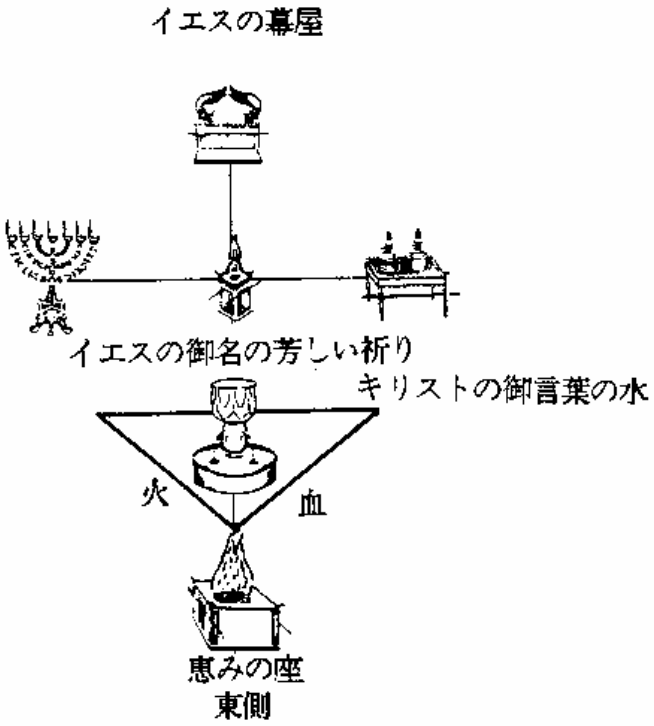


そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。（使徒 2：38）

旧約聖書の祭司は、洗盤で一度だけ全身を洗いました。それから、彼らは聖所で仕える前には、手と足を洗うために、毎日そこにもどりました。同様に信者も、主イエス・キリストの御名による水のバプテスマを肉体に受けた後には、信仰によって生ける水である聖いみことばにもどるのです。このようにして、信者は手と足を洗い、イエス・キリストの御名と、死と、よみがえりのいのちを、新たに自分のものとしなければなりません。

モーセの幕屋にあった次の家具は、金の香壇でした。それは祈りの場所を表しています。

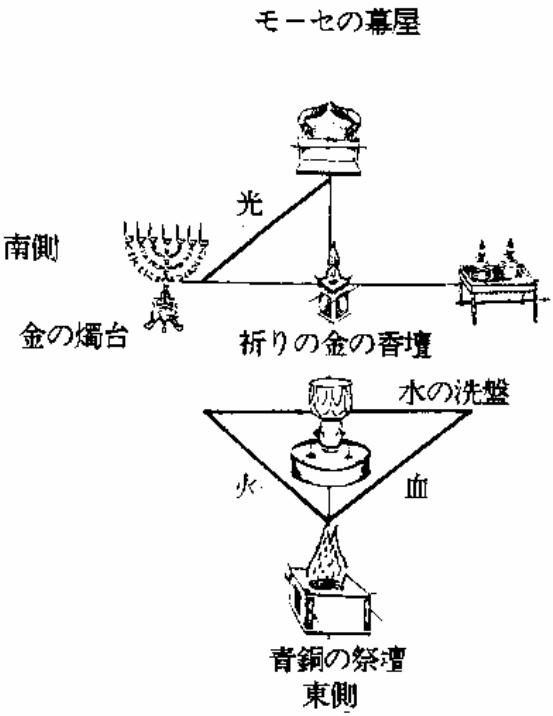


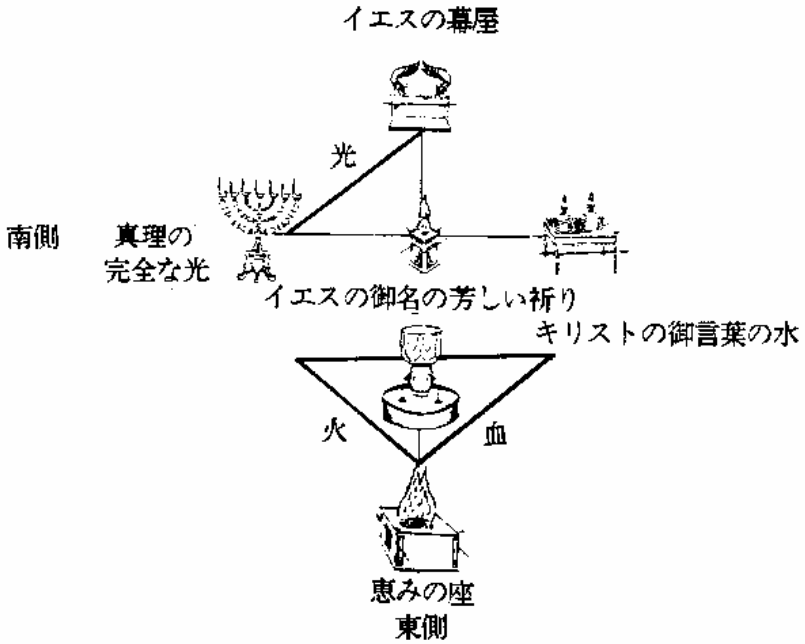


祭司は青銅の祭壇から炭火を取り、その火を用いて金の香壇で香をたきました。そうすることによって、聖所における彼の祈りと奉仕は、その香ばしい雲で覆われたのです。これは、イエスの霊的幕屋において祈りを通して、イエスの香ばしい御名と結びついた聖霊の火の姿であり、それは信者の内に、聖霊によるとりなしの祈りと産みの苦しみの祈りを解放させるのです。

> 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。(ローマ 8：26，27)

モーセの幕屋にあった次の家具は、金の燭台でした。それは聖書の全６６巻を表していました。



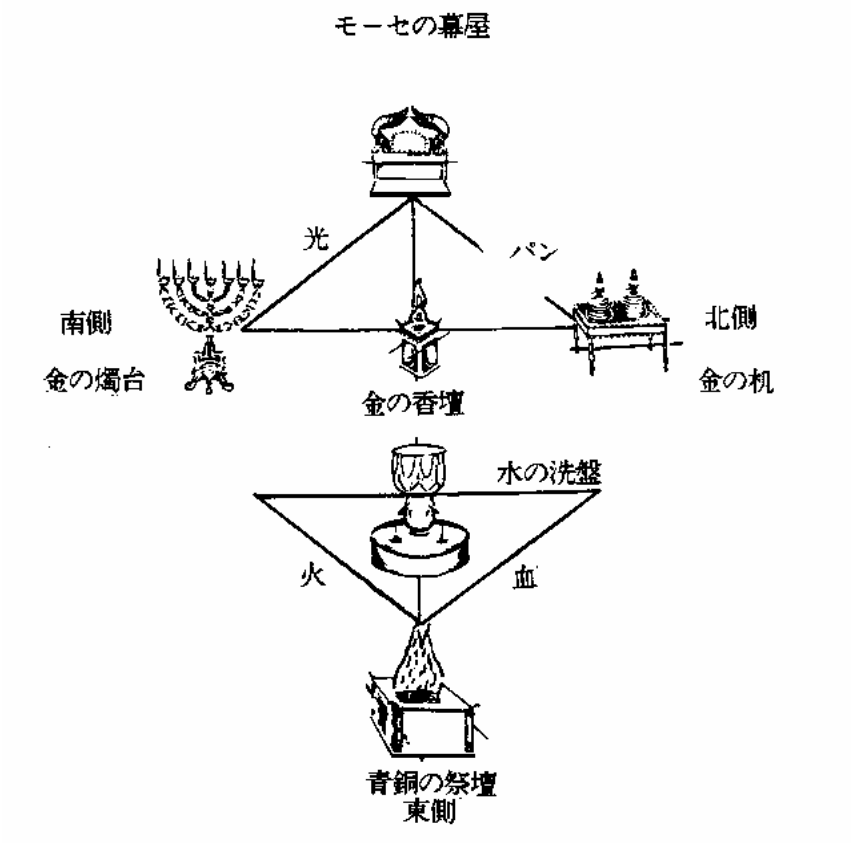


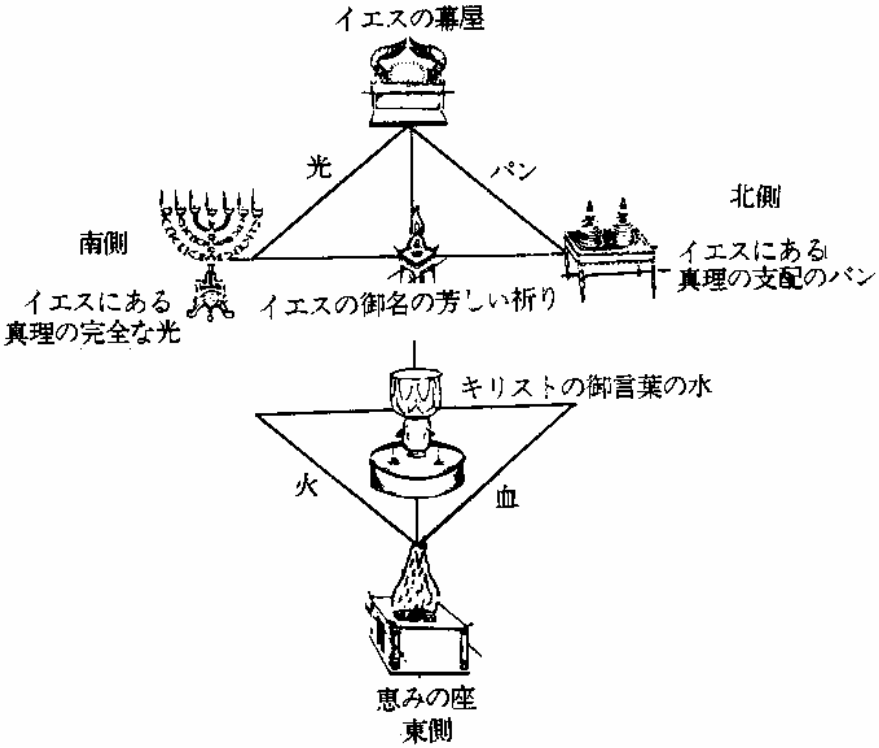
光に満ちた 7 つのランプを支えていた金の燭台は、66 のがくと節と花弁という部分から構成されていました。7 という数字は完全さを表わしています。ですから、金の燭台は、人間をすべての霊的真理へと導き入れるための、完全な霊的な光を産み出す聖書の全 66 巻の姿なのです。

> 聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓煉とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。(Ⅱテモテ 3：16，17)

御子イエス・キリストの中に、すべての真理の光を置くことは、父なる神のみこころにかなっていました。『イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」』(ヨハネ８：12) もし信者が、日毎に小道を照らすイエス・キリストの光に忠実に従うならば、イエスは、聖書

全６６巻にあるすべての真理へと導いてくださいます。
　１２の統治のパンが置かれたパンの机は、モーセの幕屋の北側に位置し天から下された真実のパンであるイエス・キリストを表していました。

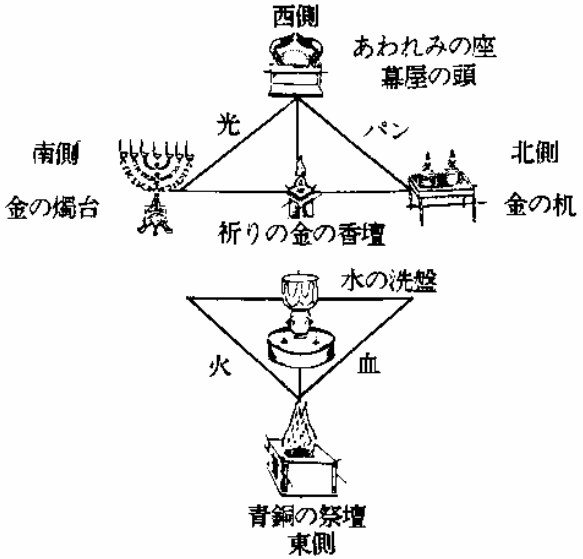




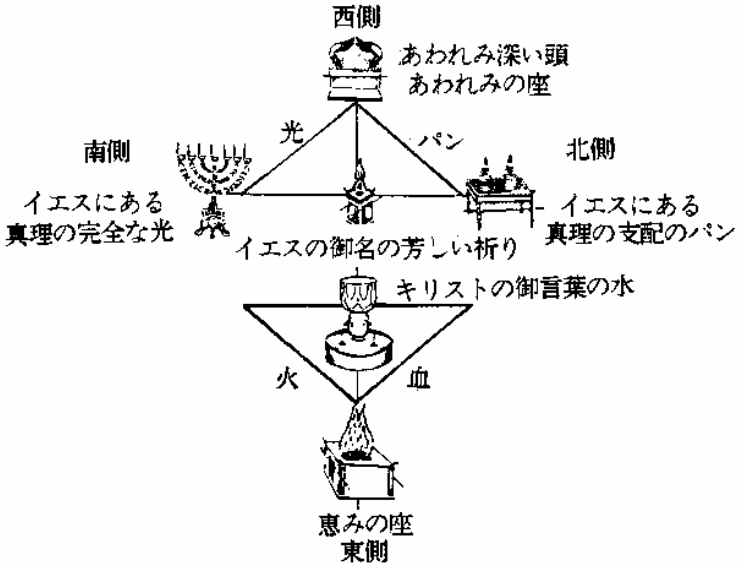
クリスチャンが、イエス・キリストのみことばを食べるならば霊的な力は増大し成長するのです。自然の食物であるパンが人間の身体の一部になるのと同じように、パンであるみことばが信者の霊的な身体の一部となった時イエス・キリストが求めるどんなことでもできるという信仰を信者は持つようになるのです。使徒パウロは、このことを証しして、「私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです。」（ピリピ４：13）と言っています。

最後の 2 つの家具は、結びついてひとつのものとして、幕屋の御座、あるいは頭を構成していました。あわれみの座は契約の箱に結びつき、イエス・キリストのあわれみ深い主権の姿を形造っていました。

モーセの幕屋



イエスの幕屋



また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。(エペソ１：22，23)

霊的成長の最終的なゴールと目標は、各自がイエス・キリストが人生における全ての事についての憐れみ深い頭（かしら）として、冠をかけることです。そしてまた、各自が全ての事と全ての思いを完全にイエス・キリストに服従させることなのです。

モーセの幕屋の家具ひとつひとつに、神は御子イエス・キリストの身丈のそれぞれの部分を表わされました。ですから、神にあっての完全な霊的成熟に達するためには、イエス・キリストの中にどのような体験を探し求めるべきかを、誰でも明確に知ることができるのです。

イエス・キリストの流された血潮を通して、霊的ないのちをまず所有しなければ、人は成長することができません。血潮の体験は、霊的な家の土台の始まりです。それがあって初めて、私たちは、御子の満ち満ちた霊的身丈に成長するようにという神の命令に聞き従うことが可能になるのです。

旧約聖書において、霊的ないのちと発育が進展していくもうひとつの姿は、イスラエルの民の、エジプトからカナンへの旅路の中に表現されています。ひとつの国民としてのイスラエルは、エジプトで子として始まり、荒野では教会に、カナンの地では妻に、そして、遂にシオンとエルサレムでは、母へと成長していきました。

イスラエルの霊的な成長

エジプト	荒野	カナンの地	シオンとエルサレム
子の関係	教会の関係	妻の関係	母の関係
そのとき、あなたはパロに言わなければならない。主はこう仰せられる。『イスラエルはわたしの子、わたしの初子である。 (出エジプト記 4：22)	また、この人が、シオン山で彼に語った御使いや私たちの先祖たちとともに、荒野の集会において、生けるみことばを授かり、あなたがたに与えたのです。 （使徒 7:38)	あなたはもう、「見捨てられている。」と言われず、あなたの国はもう、「荒れ果てている。」とは言われない。かえって、あなたは「わたしの喜びは、彼女にある。」と呼ばれ、あなたの国は夫のある国と呼ばれよう。主の喜びがあなたにあり、あなたの国が夫を得るからである。 （イザヤ 62:4)	だれが、このような事を聞き、だれが、これらの事を見たか。地は一日の陣痛で産み出されようか。国は一瞬にして生まれようか。ところがシオンは、陣痛を起こすと同時に子らを産んだのだ。 エルサレムとともに喜べ。すべてこれを愛する者よ。これとともに楽しめ。すべてこれのために悲しむ者よ。これとともに喜び喜べ。あなたは、彼女の慰めの乳房から乳を飲んで飽き足り、その豊かな乳房から吸って喜んだからだ。 (イザヤ66：8, 10, 11)

イスラエルの民はエジプトにあって、子として、依存する子供が愛情深い父を知るように神を知りました。イスラエルの民は、被造物の間で、神の長子という高い地位を待っていました。それゆえに神は、次のようにパロに警告しました。もし、神の長子であるイスラエルを、神に仕えるために自由に行かせることを拒み、イスラエルを捕らわれの身として、しばり続けるのならば、エジプトにいるパロの長子達を、死の虜として取り去ることによって裁くのです。パロは、神の長子を虜としたことで罪を犯したため、神は、パロの長子達を死の虜とすることによってパロを罰しました。イスラエルは長子として、多くのしるしや不思議なことを体験し、また霊的体験を得ましたが、これらは単なる始まりにしか過ぎませんでした。今日、イエス・キリストの子となった人たちが、すべての霊的体験における最高のまたは最終のところへ到達したなどと思い込んでしまうのは、何と悲しいことでしょう。実際には、子としての関係における体験は、イエス・キリストにあって知り、又、体験することのほんの始まりにしか過ぎないのです。

イスラエルは荒野にいた時、教会と呼ばれました。この時イスラエルは、いいなずけ、あるいは婚約関係の花嫁として主の主権に服従していましたが、結婚が完全に成立した霊的な妻に求められる状態には達してはいませんでした。

カナンの地において、イスラエルは、ひとつの国民として霊的花婿の霊的な妻として、意志を委ねることを学びました。また、彼女は、神の満ち満ちた神聖なみこころに人間の意志が結合した時体験することのできる、幸福な霊的結婚の一致を楽しむことを学んだのです。

イスラエルが霊的な夫と一致の関係に入った時、新しいいのちを産み出せる完全な成熟がシオンとエルサレムにおいて訪れたのです。その時、彼女は、霊的な娘や息子を産んだのです。イスラエルはこの発育の時点において、正しく母として描き出されています。

旧約聖書のこれらのたとえは、信者の神との霊的な体験が、常に絶えることなく発展し成長するものであることを示しています。神はたとえを用いることを、旧約聖書だけに制限したわけではありません。イエス・キリストは、多くの霊的真理を教えるために、神の被造物である自然界のたとえを、たびたび用いられました。そのたとえ話の中のひとつは、段階的な霊的成長の法則を教えています。

成長の段階

霊的な成長は、一度にすべて達成できるものではありません。むしろそれは緩やかな過程あるいは漸進的な段階を経るものであり、また身丈と外観の変化が増し加えられて達成されるものです。霊的成長の段階は、マルコの福音書の中に説明されています。

> また言われた。「神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、夜は寝て、朝は起き、そうこうしているうちに、種は芽を出して育ちます。どのようにしてか、人は知りません。地は人手によらず実をならせるもので、初めに苗、次に穂、次に穂の中に実がはいります。実が熟すると、人はすぐにかまを入れます。収穫の時が来たからです。」（マルコ 4：26～29）

種の段階

霊的成長における種の段階は、イエス・キリストにおける生まれ変わりの体験に相当します。イエス・キリストの血潮を心に塗ることによって悔い改めた者が罪から清められることは、霊的成長における体験を始めるための原則です。種は、その胚芽の中に、将来の植物としての原型を包含しています。種の段階では、胚芽は隠れていて寒さや陽を受けることから守られています。研究者の調査によれば、自然界の種は何百マイルもの海を渡ることができること、また鳥の砂嚢の中に入って運ばれたり、微量の土に隠れて人の足についたり、氷山の上で漂流する土の中に宿ったりしながらも運ばれ、なおも条件の良い状態に巡り会えた時には発芽するということです。ある種は伺百年あるいは何千年も貯えられた後に発芽したということが知られています。これらの例は、神が種の中の胚芽をいかに良く保護して下さるかを証明しています。

同様に、霊の世界においても神は、胚芽としての血の体験をイエスのへりくだりの種の中に保存し、人間の心という土地に埋めて下さいます。種の成長は、地下において始まります。人間の無知や人間の生活や体験という土くれの中に埋められるようなものです。種の蒔かれる土地は、整えられ、耕されなければなりません。それから神は、太陽の輝きに相当する神の臨在という天的な祝福と、水に相当する神の霊を、人間の心の土地に与えて下さいます。そうすると間もなくその種は、葉の段階に移されるのです。心の土地は、種の霊的成長によって変えられます。生きた真理の葉が、心の中で成長して目に見えるようになるのは、なんと美しくそして喜ばしいことでしょう。

葉の段階

植物が成長するにつれて、地上には芽や葉が出始めます。霊的な成長の体験は、夜と昼の時期を通ることによって継続して行きます。うっとうしくて、暗く、じっとりと湿った夜の時期は、小さな芽にとってみことばと祈りにおいて、特別な成長を遂げる要因となります。そして日中の貴い助けとなる太陽の光は、すべてのことにおいて小さな芽に喜びと楽しみと感謝を増し与える要因となるのです。

穂の段階

葉が十分に成長しきるなら、この霊的植物には穂、あるいは実という愛らしさが与えられます。自然界においてのとうもろこしの穂では、花と種を包んだ穂状花、あるいは頭状花にあたります。すべての成長の種は、その実の中に保存されています。**成長は実を結ぶためにあるのです。**真理のみことばにある霊的な成長は、愛の実を結びます。それは、すべての人々、場所、事柄に勝って、イエス・キリストとそのみこころを愛するということです。

実った穂の段階

成長の最後の段階では、完全に成熟した種が現れて、刈り入れの時期を知らせます。この時、胚芽は成長しきって完全な状態となり、完熟した種の美と栄光を身にまといます。それは、丁度モーセの顔がシナイ山で、主の光り輝く栄光でおおわれ、光りを放った時のように輝くのです。成熟に達したときその人の心は、収穫の主が鎌を入れて、そこから生ける真理を刈り取られるための、準備が出来ているのです。収穫された穀物は、他の飢え渇いた心に食べ物として分け与えられ、その人たちの霊的な成長の助けとなります。

人は、一度心の中で、霊的成長の現実性と重要性を確信するならば、成長の過程を求め始めます。

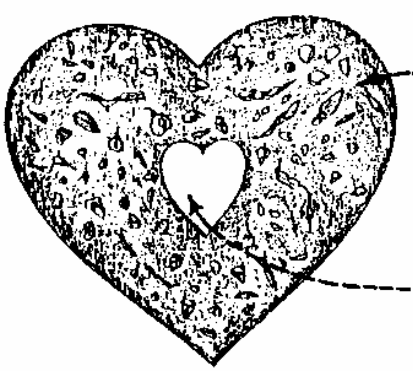
どのように霊的に成長するか

霊的成長の過程を理解する鍵は、バプテスマのヨハネによって与えられました。「あの方(イエス・キリストを指している)は盛んになり私は衰えなければなりません。」（ヨハネ 3：30）と彼は言っています。これは、主イエス・キリストの霊的な身丈が増し加わるためには、信者の内に何か衰えなければならないものがあることを示しています。盛衰の法則は、特に信者の持つ二つの心、あるいは二つの性質に関係があります。

罪人はたった一つの性質を持っています。そしてそれは、第一のアダムより受け継いだ、汚れて堕落した性質なのです。人間は*生まれながらにして*、あるいは、*行動*、*選びによって*、罪人であると聖書は教えています。「ああ、私は罪ある者として生まれ罪ある者として母は私をみごもりました。」（詩篇 51：5）と、ダビデ王は書いています。これは、生まれつきの罪のことを語っているのです。また他の詩篇でダビデ王は、人の心の中に、故意に罪を選ばせる邪悪な性質があるとも、語っています。「悪者どもは、母の胎を出たときから、踏み迷い、偽りを言う者どもは生まれたときからさまよっている。」(詩篇 58：3)人間の心の中には罪を選びたいという欲望があります。なぜなら人間は罪深い性質を持っているからです。

創世記 5：2 で神が、アダム男性・女性と呼んでいる、人類の最初の祖先が、エデンの園で罪を犯した時に、人間の心の中のすべての種も罪で汚れてしまったのです。それで神は、義の種が植えられる聖い場所を、人の心の中に見出すことができませんでした。義の種は神の世話によって実を結ぶことができるのです。すべての人間は、堕落した罪深い性質を持って生まれます。しかし、人が、イエス・キリストを救い主として受け入れる時、主ほその人の内に新しい心、新しい性質、新しい人を創造して下さいます。この新しい心は霊的であって、義と真の聖さのうちに創造されているのです。

信者の２つの心、あるいは２つの性質



古い心	なにより陰険	エレミヤ 17:9
古い心	汚れた性質	マルコ 7:21~23
古い人	ほろびる	エペソ 4:22
肉の人	肉の欲	ガラテヤ 5:7
新しい心	罪を犯さない	1ヨハネ 3:7~9
新しい心	きよい心	1テモテ 1:5
新しい心	義と聖	エペソ 4:24
霊の人	実をむすぶ	ガラテヤ 5:17

古い心は完全に堕落しています。なぜならその中のすべての種は、堕落したルシファーの、ヘビの形の罪深い性質を所有しているからです。ルシファーの罪深い性質は、エデンの園で人間の意志に結びついてしまったのです。預言者エレミヤが、なにより陰険であると呼んでいるのは、この心のことです。古い心の中に存在する、たったひとつの義とは、罪深い自己が、闇でおおわれ堕落した性質を隠すために用いる自己義というにせの形です。

一方新しい心は、イエス・キリストのイメージと似姿に従って創造されたゆえに完全です。霊の人の新しい心が、成長し大きくなるためには、肉の人の古い心が衰えなければなりません。これは、肉を十字架につけて殺すという過程を経て成就します。肉を十字架につけて殺す過程とは、古い心の中に成長している罪の種、雑草、木について告白し、悔い改めることです。

> 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。もし私たちが、神と交わりがあると言っていながら、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行なってはいません。しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでい

るなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。（Ｉヨハネ１：5〜10）

コリント人への第一の手紙で使徒パウロは、自分の肉を十字架につけて殺すことについてこう言っています。「・・・私にとって、毎日が死の連続です。・・・」（Ｉコリント 15：31）しかしながら、死は事の終りではありませんでした。ガラテヤ人への手紙 2：20 で、彼は次のように証ししています。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

使徒パウロの肉は毎日イエス・キリストの死の水の中へ沈められました。そうすることによって、彼はキリストのよみがえりの力と栄光を通して、新しい人が成長していくのを体験したのです。パウロは、また死ぬべき肉の中に生きていたにもかかわらず、古い肉の心の生まれ変わっていない性質に従って歩むような虜ではありませんでした。パウロは肉の人を十字架につけて殺し、霊の人を成長させることによって、イエス・キリストとの霊的な一致の関係に入ったのです。パウロは信仰によって、自分の肉の意志をイエスの十字架に、釘づけにしながら生きていたため、肉欲ではなくむしろ霊によって歩むことを、一瞬一瞬選ぶことが出来たのです。

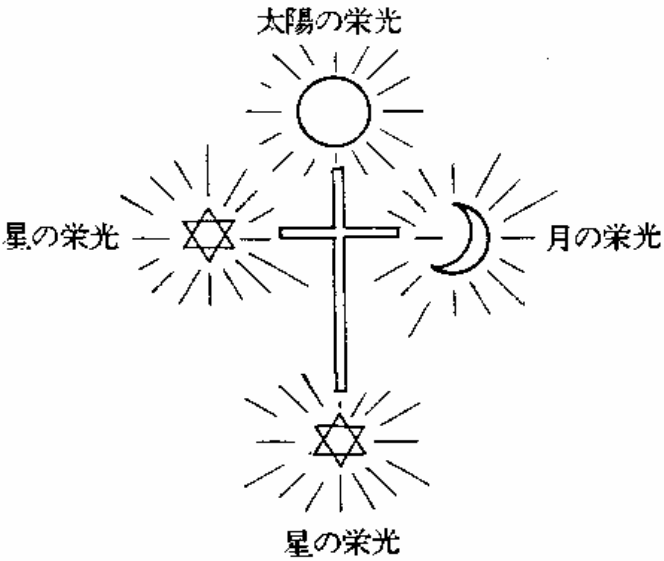
人が、主イエス・キリストとの完全な交わりの中に歩む時、その人の心には、明確で清く輝く真理の光が、洪水のように押しよせて来ます。その体験は、たとえその人に将来が無かったとしても、霊的な成熟に達するために体験するどのような痛みをも償ってあまりあるほどのものです。もちろんそこには、その場での報酬も伴います。しかしながら、神のみことばは、次のこともまた教えているのです。永遠において、全ての信者は、この人生の中で得た、その信者ひとりひとりの成長の身丈に従って報酬を受けるのです。

成長に応じた
永遠の報酬

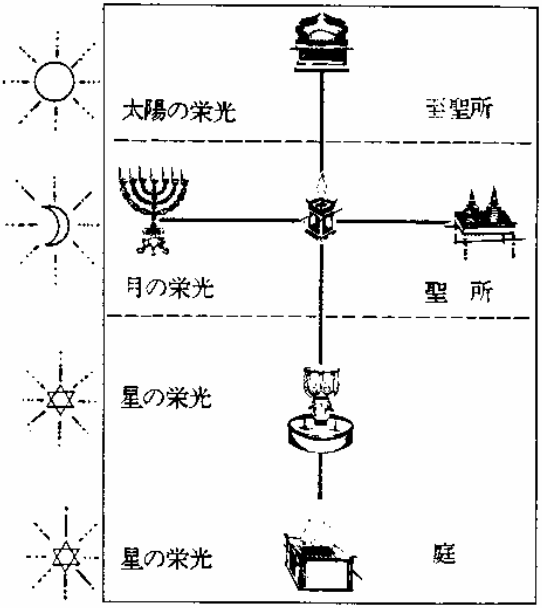
永遠において神が、どのように信者に報酬を与えるかは、パウロによるコリント人への第一の手紙の中に啓示されています。

> ところが、ある人はこう言うでしょう。「死者は、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。」愚かな人だ、あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。あなたが蒔く物は、彼にできるからだではなく、麦やそのほかの穀物の種粒です。しかし神は、みこころに従って、それにからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります。すべての肉が同じではなく、人間の肉もあり、獣の肉もあり、鳥の肉もあり、魚の肉もあります,また、天上のからだもあり、地上のからだもあり、天上のからだの栄光と地上のからだの栄光とは鼻なっており、太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります、個々の星によって栄光が違います。死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、
>
> （Ｉコリント 15：35～42）

このみことばは、信者のよみがえった身体と栄光の段階を較べています。よみがえりの朝には、ひとりひとりの信者がよみがえリの身体でもって起こされます。そして彼らは、これら４つの段階の栄光の中の 1 つで輝くのです。



永遠において、イエス・キリストと青銅の祭壇の体験しか持っていないクリスチャンは、小さな星のように輝きます。また青銅の洗盤で啓示された真理へと進んだ者は、より明るい星の栄光の度合をもって輝くのです。聖所へ岬し進んだクリスチャンは、そこで啓示されたイエス・キリストの身丈を得て月の栄光で輝きます。そして至聖所においては、完全な霊的成熟に達した人々がいます。彼らは霊的な結婚の一致によって、自分の意志をイエス・キリストの意志に結びつけた者たちです。この最後のグループのクリスチャンは、キリストの花嫁となって、最も高い段階の栄光である、太陽の栄光を得るのです。



マタイの福音書 20 章に書かれている、ぶどう園の労務者のたとえ話の中で、イエス・キリストは身丈について語っています。最初の労務者は、1 日 1 デナリて働くことに同意したにもかかわらず、主人を不正な者として非難しています。なぜなら主人が、第 11 時（5 時）に働きに行った人にも同様の賃金である 1 デナリを支払ったからです。彼らは高慢にも、自分達の方が第 11 時（5 時）の労務者より値打ちがあると主張していますが、最後に働きに行った労働者が一生懸命に働いて、1 日分の仕事を 1 時間で成し遂げたということを、見落としているのです。だから、主人が両方の人々に同じ賃金を支払ったことは正当なのです。このたとえ話によって、神が示そうとしている教訓は、報酬は霊的な身丈にしたがって与えられるということです。言い換えるなら、神は、私たちがぶどう園で費やした時間の長さではなく、むしろ霊的な成長に応じて報いて下さるのです。

多くの人々は、自分がどれほど長い間クリスチャン生活をしているかを語ることに、喜びを感じます。しかし彼らの生活は、彼らが霊的な乳飲み児から全く成長していないことを表しています。

パウロは、コリント人への第一の手紙の冒頭で、教会がすべての霊的な賜物を所有している事実を認めています。

> 私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っています。
>
> （Ｉコリント１：４～7）

これらの聖句を読み、ある人はコリントの教会を霊的な巨人と思うかもしれません。しかし、それは正しくないのです。なぜなら、同じ書の 3 章でパウロは、披らを霊的な幼子と呼んでいるからです。（Ｉコリント 3：1～3）ですから、聖霊の賜物は神がそう呼ぶように、まさに「賜物」にしか過ぎないことがわかります。神は、信者が霊的に成熟しているという理由で、聖霊の賜物を授けるわけではありません。むしろ賜物は、信者の成長を助けるものとして与えられるのです。

霊の賜物は素晴らしく、そして栄光のあるものです。しかし霊的な成熟とは、単にそのすばらしい霊の賜物を用いることができるようになることだけではありません。霊的な成熟は、信者の能力によって立証されます。その能力とは、人生の試練にさらされる環境のただ中で、主イエス・キリストの性質をもって語り、行動することです。たとえば、弟子たちには病をいやし、死人をよみがえらせ、悪霊を追い出す力が与えられていました。しかし、最後の危機が迫った時に彼らは、どのような行動を取ったでしょうか。彼らは眠り込んでしまい、遂にはイエスを見捨ててしまったのです。ペテロは、他の誰よりもイエスを愛していると大胆に誇りました。しかし、自分の力で事態を贖えないのを知った彼は、のろい、そして 3 年以上も誠実な友としてこの方を知っていたという事真さえ、否定するまでなったのです。

それでは、完全に成長していたイエス・キリストは、ゲッセマネの園で死に直面されたときにどのような態度をとられたでしょうか。イエスはその時、極限の委ねをしました。「またこう言われた。『アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけて下さい。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。』（マルコ１４：３６）イエスは、全能の力を持つ指の一本を動かして御自身を救わず、むしろゲッセマネの園で、たった一人で死んでも良いと身を委ねたのです。

罪を持たないこの方は、天と地の間に架けられている間、次のような人々を見降ろされていたのです。はぎ取った者たち、あざけった者たち、つばきをはきかけた者たち、打った者たち、そして十字架に釘づけにした者たちです。恥と痛みを負わせた者に対する人間の生まれつきの反応は、激しい嫌悪と軽べつでしょう。しかしイエスは、「・・・父よ、彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです・・・。」（ルカ 23：34）と叫ばれました。誠実な心を持ったクリスチャンが、イエス・キリストをほんの少しでもかいま見るなら、そこにはさらに偉大な霊的成長の場があることが示されます。

私たちは、主の再臨が近い第 11 時の時に生きています。今こそ、私たちに残されたわずかの時を利用して、十字架につけられたキリストによって、私たちの肉の性質を殺し、よみがえりのキリストの栄光に満ちた性質を自分のものとするべきです。永遠において報酬が与えられる時にはぶどう畑で何年働いたかとか、賜物をどれだけ持っていたかということは、何の益にもならないのです。たとえ多くの魂を主に導き、何年主に仕え、奉仕したとしても、みことばは私たちが「役に立たない僕」であることを宣言しています。主は量的な身丈の成長を求めているのです。なぜなら永遠の報酬は、霊的な成熟をもとにして与えられるものであり、何年神に仕えたかによるのではないからです。

またよみがえりの身体は、家（住む場所）にたとえられたり、服(身にまとうもの)にたとえられています。

> *私たちの住まい(身体)*である地上の幕屋がこわれても、神の下さる建物があることを私たちは知っています。それは、人の手によらない、天にある永遠の家です。*私たちはこの幕屋にあってうめき、この天から与えられる住まいを着たいと望んでいます。それを着たなら、私たちは裸の状態になることはないからです。（Ⅱコリント 5：1～3）

＊訳注：原著者により加筆説明されている。

黙示録は、聖徒たちが着る衣には、まったく異った三つの種類があることを述べています。それらは、白い一重の衣、白い二重の衣、白い麻布です。この霊的な衣服は非常に重要なものなのです。信者の永遠の住まいあるいは、住み家は、その人のよみがえりの衣の階級によって決定されるからです。

白い一重の衣

ヨハネは、白い一重の衣を着ている 2 つのグループの魂を見ました。ギリシャ語では「一重の衣」というのは、威厳のしるしとしてまとう長いガウンという意味であり、「白」というのは光という意味です。したがってよみがえりの身体は、みことばの光と栄光の衣ということになります。

> 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行なわず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」**すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。**そして彼らは「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい。」と言い渡された。
>
> (黙示録 6：9～11)

この幻の初めの部分ではこれらの魂は、白い一重の衣、すなわちよみがえりの身体を持っていないということに注意して下さい。彼らは祭壇の下から主に向かって泣き叫んでいました。この位置そのものが、彼らの身丈の未熟さを示しています。それに加えて彼らが語った言葉が、彼らがまだ霊的な乳飲み児であることを証明しています。つまり彼らは、「この試練はいつまで続くのですか。神よ、私たちの問題について何かして下さるまでいったいいつまで待たれるのですか。」と言っているのです。これは、信仰が成熟していなかった人々の言葉です。彼らは、いまだに「神は私たちの身体を墓よりよみがえらせそのよみがえった身体に魂と霊を結びつけるに十分な力を持っているのだろうか。地上において私たちが得た神の栄光の一部で、私たちを装ってくれるだけ、神は善良な方であろうか？」と不信感を抱いているのです。愛する皆さん。イエス・キリストを死からよみが

えらせた方は、善であり、カのある方なので救いのために神に依り頼んだすべての人々をよみがえらせて下さいます。神の御名を永遠に賛美します！

＊訳注：日本語では単に白い衣と訳されているが、原語であるギリシャ語では、一重の長い衣という言葉が用いられている。

＊（地上のイスラエルに部族が印をおされた）その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群集が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し神を拝して言った。「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか。」と言った。そこで私は、「主よ。あなたこそ、ご存じです。」と言った。「彼らは大きな艱難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。だから彼らは、神の御座の前にいて、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。」

（黙示録７：９～17）

＊訳注：（　　）は、原著者により加筆説明されている。

ある人たちは、この章で述べられている大群衆は、大艱難の間に救われた人々であると教えていますが、それはありえません。

なぜなら、ヨハネはこの幻を大艱難の終わりではなく、むしろ初めの方で見ているからです。ヨハネが彼らを見た時、彼らは白い一重の衣を着ていました。それは、すでに彼らが栄光の身体を受けていたことを証明しています。これらは救いの白い一重の衣を着ている贖われた人々です。

15 節では、大群衆は神の御座の*前*に、あるいは御座の外に立っていたと言っています。*前に*というのは、顔の前、目の前という意味です。実際、人が家の前、あるいは外に立っていて、その人が家の中にいないということはありえます。イエスは、ラオデキヤの教会の勝利者たちが、御座で、彼と共に座すと約束しました。（黙示録 3：21）

花嫁は、御座の内側から神を賛美すると言われています。(黙示録 19：5) 永遠において神は、御座を新しいエルサレムに移します。(黙示録 22：1)花嫁だけが花婿の高尚な統治のカと権威との間で、ここまでの一致をできるのです。

白い一重の衣をつけた信者のグループの永遠の住まいは、15 節でもはっきりと定められています。

> だから彼らは神の御座の前にいて、**聖所で昼も夜も、神に仕えているのです**。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。（黙示録 7：15）

神の宮は天にあるのですから、白い一重の衣のグループの人たちが、天で昼も夜も神に仕えることは明確です。天には自然の太陽や月はありません。ですから、この「昼と夜」という表現は、私たちが地上で考えるような太陽系の昼と夜のことを言っているのではありません。聖書は、聖書そのものの最善の注訳書です。黙示録 14：11 で、「昼と夜」という表現は**永遠**を表わしています。「そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は昼も夜も休みを得ない。」（黙示録 14：11）このことから、白い一重の衣を着る者は決して天を離れないことがわかります。披らは、永遠にそこにとどまるのです。神は現在の私たちの間に、遍在という形で住まわれているように、この白い一重の衣の信者の間にも同様に住まわれます。これら白い一重の衣を着る者たちは、涙を流します。（黙示録 7：17）それは、彼らがイエス・キリストの花嫁になるという賞与をのがしたからです。にもかかわ

らず、神のあわれみは、彼らを生ける水の泉に導きます。

白い二重の衣

また、御座の回りに二十四の座があった。これらの座には、
白い衣を着て、金の冠を頭にかぶった二十四人の長老たち
がすわっていた。（黙示録 4：4）

＊ 訳注：日本語では単に白い衣と訳されているが、原語であるギリシャ語は、裏地のある二重の衣という言葉が用いられている。

ここでは、あるグループの信者が、白い二重の衣を着ているのが見られます。*白*という言葉は、ここでも、栄光、光、彼らの衣の輝き、を示しています。しかし、*衣*という言葉は、白い一重の衣とは違ったギリシャ語を用いてはっきりと使い分けられています。白い二重の衣とは、外側と内側の衣を着るという意味です。これは、白い二重の衣のグループの人々が、彼ら自身を装う過程においてさらに前進していることを示しています。彼らは救いの衣である威厳の外側の衣を着ていると共に、力という内側の衣をも着ています。聖書に基づいた中東の習慣によれば、衣の枚数が多ければ多いほど、その人の富と地位は高いことを示していました。これは霊の世界においても真実です。白い二重の衣を着ている人々は、身丈の成長においてさらに前進して、権威と重要性においてより多くの宮と高い地位を獲得しました。

長老たちが頭に金の冠をいただいているところから、彼らが高められた地位を得たことがわかります。高揚を得るための神の法則'が、箴言の書の中にソロモン王によって与えられました。

主を恐れることは知恵の訓戒である。
謙遜は栄誉に先立つ。（箴言 15：33）

人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ。
（箴言 18：12）

これらの聖徒たちは、人生の旅路においてイエス・キリストのへりくだりを自分のものとしました。すなわち、生まれつきの肉的な性質と、心の欲求を治めるための力で覆う、白い二重の衣を得たのです。彼らは、個々の人生において得たへりくだりのゆえに、支配の力と権威を委ねられることが可能となったのです。

復活した白い二重の衣の人々は、新しい地に永住し、その事は、5 章に述べられています。

> 彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き者と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっぱいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました、彼らは地上を治めるのです。」(黙示録 5：8～10)

この聖句は、白い二重の衣の人々とは、単に 24 人の長老（象徴的な数字）だけではなく、4 つの獣、あるいは生き物（象徴的な数字）をも含んでいることを啓示しています。ヨハネはこれらの獣、あるいは生き物について、黙示録 4：6～8 に記述しています。獣、あるいは生き物の衣が、白い二重の衣であると述べている特定の聖句はありませんが、獣と生き物の居賜所と働きから論理的に結論を導き出すことができます。すなわち、彼女は 24 人の長老（白い二重の衣の聖徒）と共に御座の回りに位置しており、彼らの働きは 24 人の長老（白い二重の衣の聖徒）と共に新しい地において行われるからです。永遠において王たちは、新しい都へ*入る*特権を持っています。（黙示録 21：24～26）しかし、新しい都は彼らの*住む*場所ではありません。黙示録 5：10 は、王たちと祭司たち(獣と長老)は「地上を治めるのです。」とはっきり言っています。この信者たちは、霊的な身丈において、肩まで成長したため、統治の支配が委ねられたのです。

白い麻布

私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから、花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。(黙示録 19：7～8)

太陽の栄光が月と星の栄光よりも勝っているように、白い麻布は、白い一重の衣と白い二重の衣よりも勝っています。麻布という言葉は、光りを放つ、澄んだ、荘厳な、ぜいたくな(外観)、輝かしい、明白な、華美な、立派な、豪華な、白いという意味を持つギリシャ語に由来します。さらにその言葉の語源にもどると、光線、光りを放つこと、輝かしさ、**光りを与える**という意味があります。

光りを所有することと、光を与え、又は分ち合えるようになるということは、異なります。白い一重の衣の人々と白い二重の衣の人々は、光を所有していますが、他に分け与えることは出来ません。たとえば白い一重の衣の人々は、救いの衣を一枚所有していますが、自分が裸にならない限り他の人に衣を与えることはできません。白い二重の衣の人々は、救いの衣とカの衣を所有していましたが、いずれも個人的なものでした。主イエス・キリストの花嫁だけが光を**与える**ことができるのです。それは、遍在である世の光であられる方と完全な結婚の関係を結んでいるのが花嫁だけだからです。

小羊の妻の栄光と美をかいま見る時、即座に、花嫁の一部でありたいという望みが心を満たします。聖書は、花嫁は自分自身で準備を整えたと言っています。また彼女の美しい白い麻布のウェディンクドレスは、彼女の義の思い、行い、態度によって織られたとも言っています。花嫁は栄光のウェディングドレスを贈物として受け取ったのではありません。花嫁に与えた花婿の贈物は、救いの白い一重の衣です。それは、庭で血と火と水という土台の体験を通して形作られました。彼女は、生まれつきの肉の性質に血と火と水を用いるたびに身丈が成長し、聖所で得られる力である白い二重の衣を獲得するに至ったのです。へりくだりのカの衣をまとった彼女は、花婿の心を悲しませるような、内面の態度や性質を支配し、治めました。それゆえに彼女の身丈は成長し成熟し続けたのです。花嫁は、霊的な夫の決断と裁きを支配する、純粋で聖い義の原則に**ついて**単に学んだだけ

ではありません。花嫁の心は至聖所において花婿の心に完全に結びついていました。それゆえに披女は、花婿の中にあるのと同等のへりくだりと義を実行したのです。

花嫁の義は、まず最初に霊的な花婿に向けて表わされました。花嫁はこの地上にいる間、神に対して正しい態度を保ち続けることを学びました。彼女は、たとえ逆境や屈辱の環境にあっても、思い、言葉、行動、を正しく保ちました。次に彼女は、共に生活し奉仕した人々に対して義を実行することを学びました。

イエス・キリストは、特別に花嫁のためにもどって来られます。しかしその時、白い一重の衣の人々と白い二重の衣の人々のうち勝利者となった人たちもすべて空中携挙にあずかるのです。実際の結婚式がそうであるようにこの霊的な結婚式においても花嫁と花婿の他にたくさんの人々が出席します。トランペットが吹きならされる時、キリストにある死者が、まず復活し、それから生きている者が空中で主にまみえるために、彼らと共に雲の中に引き上げられます。生きていようと死んでいようと勝利している聖徒たちは皆、天において執り行われる小羊の婚宴にあずかるため、空中携挙されるのです。

結婚式には招かれた人々（マタイ 22：1～10）また処女たち（中東の結婚式では花嫁の付添いは処女と呼ばれた。（マタイ 25：1～13））そして花婿の友達(花婿の付添人にあたる人（ヨハネ 3：29）)がいました。皆、復活の栄光の衣で輝くことでしょう。ある者は白い一重の衣を、ある者は白い二重の衣をまとうでしょう。しかし白い麻布を持つのはたった一人です。小羊はたった一人の花嫁を待つのです。彼女は、単数であり、唯一なのです。

> 王妃は六十人、そばめは八十人、おとめたちは数知れない。
> 汚れのないもの、私の鳩はただひとり。彼女は、その母の
> ひとり子、彼女を産んだ者の愛する子。娘たちは彼女を見
> て、幸いだと言い、王妃たち、そばめたちも彼女をほめた。
> (黙示録 6：8，9)

詩篇 45 篇に、キリストの花嫁のもうひとつの描写が、王の娘という形で与えられています。処女たち、すなわち彼女の連れの者たちに加えて、栄誉ある女たちのことか述べられていますが、他の者たちをさらに上まわって、自分自身を整えた者が一人いました。彼女は王の前に連れて行かれます。

大艱難の終りの時に婚宴が終了すると、イエス・キリストは、タビデの

王座に着き地上て千年王国を開始するために、花嫁と共に戻って来ます。

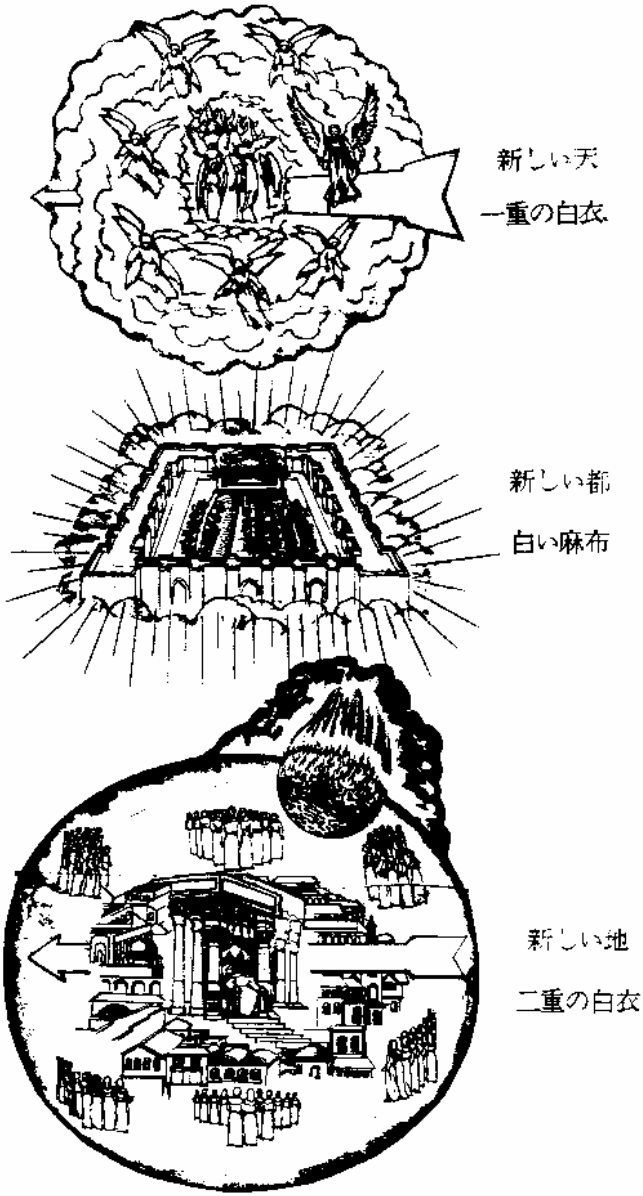
> また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。その日は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があって、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。
>
> （黙示録 19：11～14）

キリストが肉体をもってこの世に来られる何百年も前に、預言者ヨエルは、力強い軍隊と共に主が再臨することを預言しています。（ヨエル 2：1～11）黙示録では、この時に、主と共に地上にもどる軍隊は、**白い麻布**を着ていると述べています。ですから、これがまさに花嫁であることがわかります。花嫁は、義である聖い神の意志のために戦う準備ができているのです。

千年王国の終りに、花婿イエス・キリストと花嫁によって地上に神の意志が強固に立てられたのち、主は地上の統治権を復活したタビデ王に明け渡します。だからダビデ王は預言されているように（エレミヤ 30：7～9，エゼキエル 34：23，37：24，ホセア 3：5、アモス 9：11）地上の王座につくことができるのです。それから花婿であるイエス・キリストと花嫁は、新しい都である新しいエルサレムに移ります。そこが彼らの永住の地だからです。永遠にわたって花婿と花嫁は、新しいエルサレムから支配し統治するのです。ヨハネは、その新しいエルサレムが、天から下って来るのを見ました。

永遠において、復活した信者は、それぞれがまとった三種類の衣によって分けられます。白い一重の衣、白い二重の衣、そして白い麻布があって、それぞれの信者の栄光の度合いを表わします。この栄光は、それぞれの信者がこの地上にいる間に通った霊的な体験によって獲得した、霊的な身丈の成長に応じて与えられるのです。復活した時に着る特定の衣が、その信者の永住の場所を決定します。

復活した信者たちの永住の場所



救いの白い一重の衣を着る者は、天に永住します(黙示録 7：15)支配の権威をもつ白い二重の衣を着る者は、キリストの千年王国の支配が終わるまでは地上にもどりません。しかし、千年王国が終わったその時には、ダビ

デ王が再び王座につきます。そして白い二重の衣の人々は、王としてまた祭司として、新しい地の統治と支配をダビテ王と分かち合うのです。イエス・キリストの花嫁だけが、神と小羊の個人的な臨在のもとで新しい都に永住できるのです。花嫁は、確かに、永遠に渡って、絶え間なく次のように叫び続けるのです。「成長し、神の御顔を拝し、神に個人的に仕えることができるという栄光に満ちた特権に比べるなら、この世での艱難はとるに足りないものです。すべての人々の心が、日ごとの霊的な身丈の成長を真剣に獲得し、キリスト・イエスにある神の高い召しの賞与に向って前進し、向上できるよう神の恵みがありますように。主イエス・キリストの花嫁になるという賞与こそが、すべてのクリスチャンが日々成長したいという燃える聖い熱心さをもって動かされるべきであるということの理由なのです。

You, too, can grow!
By
B.R. Hicks
Copyright

（c）Christ Gospel Churches International, Inc.

P.O. Box 786, Jeffersonville, Indiana 47130
1980

Original English language edition was published
By Christ Gospel Churches International, Inc.
Japanese translation rights have been given to
Christ Gospel Church, Japan.

あなたも成長できる！

2004 年 10 月 1 日第 2 版発行

著者　B. R. ヒックス

訳者　クライスト・ゴスペル・チャーチ

（c）2004　Christ Gospel Church, Japan

発行　クライスト･ゴスペル・チャーチ

発行責任者　　西川了一

住所　　東京都福生市加美平 1 丁目 16 番地 6　アビタ 21

電話 042(553)2096

　042(581)8954